

令和6年度 自己評価表 坂町立坂小学校 ～「本気」と「感動」～

中期経営目標	短期経営目標	評価項目(具体的な取組・方策)	評価指標	参考値 (令和5年度)	目標値	実績値		評価 (自己評価の結果)	成果と課題	改善策
					令和6年度	中間	最終			
【確かな学力】 主体的に学び、最後までがんばり、豊かに表現することができる児童	基礎的な学力の定着	○ 個別最適な学びの充実 ・日常的な授業改善 (ICTの活用・授業観察) ・帯タイム・水曜道場の充実  ○ カリキュラムマネジメントの視点をもった授業づくり	単元末テスト【国・算】  標準学力テスト【国・算】	単元末テスト(知識・技能) 89%  	単元末テスト(知識・技能) 85% 標準学力テスト 正答率30点未満の児童を20%	単元末テスト【知・技・能】 88% 標準学力テスト【知・技・能】 正答率30点未満 5.1%	単元末テスト【知・技・能】 88% 標準学力テスト【知・技・能】 正答率30点未満 5.1%	A	・児童の発達段階に応じて、ICTを効果的に用い児童の理解を促したり、学習内容の定着を図るなどの日常的な授業改善に取り組んだりした結果、単元末テスト【国・算】及び標準学力テストにおいて目標値を上回る状況が見られた。個に応じた手立て(支援)や学び方の選択 (ICT等の活用)により、各学年に於いた活動が行うことができた。一方で、児童が目的意識をもって主体的に取り組む場面が十分とは言えない状況がある。	・各学級・学年の平均点は目標値を達成することができたものの、学習到達率が60%を下回る児童が一定数いる。そのため、指導体制の工夫を取り入れ「分かる授業」のより一層の実現に向けて日々の授業改善に取り組む。また、個別最適な学びの実現に向けた取組を進めていくことができるように、多様な学び方を考えていく。
	豊かな表現力につながる読解力の育成	○ 授業での対話場面を重視した協働的な学びの充実 ・自分の考えの根拠を明確にした説明 ・複数の情報から必要な事項を読み取る力 ・自分の考えを豊かに表現する活動 ・「理由付け」「比べる」の焦点化 ・ICTの効果的な活用	単元末テスト【国・算】  標準学力テスト【国・算】	単元末テスト(思考力・判断力・表現力) 86.3%  	単元末テスト(思・判・表) 85% 標準学力テスト 正答率80点以上を70%	単元末テスト【思・判・表】 84.4% 標準学力テスト【知・技・能】 正答率80点以上 35% 正答率30点未満 5.8%	単元末テスト【思・判・表】 84.5% 標準学力テスト【知・技・能】 正答率80点以上 35% 正答率30点未満 5.8%	C	・授業交流や研修を通して学びの本質を考えることにより、協働的な学びに向けた「問い」を精査する場面が増えた。一方、高学年は算数科において特定の単元での難しさが見られた。 ・言語活動においては、国語科だけではなく他教科でも意識的に行ったり、朝のスピーチなど日常生活の中にも取り入れたりし、各学年に於いた活動が行うことができた。一方で、児童が目的意識をもって主体的に取り組む場面が十分とは言えない状況がある。	・算数科のみならず、高学年は特に、特定の単元において児童の困り感が顕著にみられるため、少人数指導や個に応じた支援の在り方を考えていく必要がある。 ・ねらいを達成するための効果的なICTの活用となるよう、ねらいを明確にして授業改善に取り組む。 ・自分の言葉で思いや考えを伝えられるような場面や目的意識を明確にもたせて活動する場を意図的に設定する。
【豊かな心】 礼節を重んじ、友達や家族を大切に思う心をもち行動しようとする児童	礼節の向上・挨拶・黙動清掃	○ 礼節週間での取組 ・望ましい返事や挨拶を確認 ・全校での挨拶運動  ○ 時間いっぱい隅々まで行う黙動清掃の推進	児童アンケート	【挨拶】85% 【掃除】82%	85%	【挨拶】88% 【掃除】79%	【挨拶】90.6% 【掃除】84.3%	A	・挨拶運動週間(あいさつ名人)の取組は、意識付けとなり、挨拶をする雰囲気が増えた。運動期間が終わった後も継続していくことが課題である。 ・黙動清掃についての掃除時間の放送も意識付けに効果的だった。まだ声がかかる場所があることや担当場所が時間内に終わった児童への指示が課題である。	・挨拶運動週間が終わった後も挨拶が続いている児童を積極的に評価するために、当初から評価の仕方や評価の基準を職員に周知する。 ・掃除時間の放送を継続し、意識付けと肯定的評価を行う。担当場所が終わった後に掃除の仕方や内容を例示するなどして児童に周知する。
	思いやりの心の育成	○ 思いやりの行動の価値付け ・めざす思いやりの姿の発達段階に応じた共有 ・各学級や学年で行った取組の交流と実践(職員間)	児童アンケート	92.0%	90%	93.0%	94.4%	B	・縦割り班での児童会行事やペア学年での活動によって相手を思いやる行動を価値付けすることができた。 ・各学級や学年で行った取組の実践交流をすることができなかった。	・受容的な学級風土づくりや思いやりの心の育成につながるような実践の交流を1、2学期末に行う。
【たくましい体】 体を動かすことが好きで、基本的な生活習慣が身に付いている児童	体を動かすことが好きな児童の育成	○ 授業・体育的行事の工夫 ・体育専科を中心にした活動の提案  ○ 休憩時間の外遊びの啓発 ・委員会を中心にした外遊びの紹介や場作り	児童アンケート	88%	80%	86.0%	87%	A	・体育の授業は、スモールステップの場づくりや学年に応じたルールの工夫をすることによって、すべての児童が楽しく活動することができている。 ・なわとび台を移動させることによって、なわとびをする児童が増えたが、外遊びをする児童が決まっている。また、遊びが決まっている児童が多い。	・体育の授業の導入にする準備運動を準備運動につながる運動遊びに変えることで、多くの遊びを知る機会にする。 ・給食時間の体育委員会による放送で、いろんな遊びを紹介する。
	健康を守る意識の向上	○ メディアコントロールの改善と定着 ・メディアコントロールカードの取組 ・毎学期の保健指導の充実	児童アンケート	91%(1月実施)【アンケート】73%	80%	95%(5月実施)【アンケート】73%	97%(1月実施)【アンケート】75.3%	A	・メディアコントロールチャレンジ期間を設けることで、メディア以外の遊びを考え、取り組む機会になっている。 ・高学年にあがるにつれてできていない児童が多くなり、できていない児童も固定化されている。	・メディアに関する道德の教材を活用したり、外部連携を取りながら、メディアについて考える機会をつくる。
【信頼される学校】 地域・保護者とつながる、安全・安心な学校	地域・保護者との連携・協働	○ 積極的な情報発信 ・学校便り・学年便り・HP等  ○ 教育相談の充実 ・SSR、通級指導教室など関係機関との連携	保護者アンケート	【様子が伝わる】95.5% 【相談】92.6%	80%	【様子が伝わる】96.9% 【相談】94.1%	【様子が伝わる】95.2% 【相談】91.8%	A	・学年・学校からの便りでは、児童の成長の様子を言葉や写真を通して知らせたり、個人面談や学級懇談会で直接保護者と連携したりして、毎日の学校生活全体を通して情報を共有しながら進めた。 ・担任だけでなく、様々な機関と連携することで児童の困り感に寄り添い保護者と解決に向けて対応することができた。	・引き続き、校内での報連相・確認を迅速に行う。 ・保護者が必要としている情報はどんなことかキャッチしながら、学校教育目標に向けて学校全体での取組を共有していきたい。
	組織力の向上	○ 日々の業務で充実感が得られる取組 ・目標の進捗状況を相談し合える時間の確保  ○ 子供と向き合う時間を確保するための取組 ・学年・分掌で協働的に業務を行う	職員アンケート	【目標管理】88.9% 【充実感】94.4%	80%	【充実感】91.3% 【協働的】100%	【充実感】96% 【協働的】90.9%	A	・児童と関わりを大切にしながら、授業改善や生徒指導することで一人一人の成長を実感するときに充実感を得ている教員が多い。 ・教員間でのコミュニケーションを大切にしながら組織的に業務を行うことができた。	・2学期は行事が多く、見直しをもって進めていても仕事量の偏りが出たため、充実感より疲労感が増す教員が出た。計画段階で適正な業務を分担し、互いに声をかけ合いながら、多い業務の支援が行える職員集団づくりを皆が意識して取り組む。

【自己評価 評価基準】 A: 目標は十分達成された(目標値+5%以上) B: 目標は達成された(目標値±4%) C: 目標は達成されなかった(目標値-5%以下) D: 目標は全く達成されなかった(目標値-10%以下)